

SDGsシンポジウム開催



令和3年11月19日、前橋市・ホテル1-2-3前橋マーキュリーにおいて、SDGsシンポジウムを開催した。社会・経済においてSDGsへの関心が世界的に高まる中、組合・企業がSDGsを理解した上で経営に結び付け、事業を通じて取り組めるよう、SDGsの普及推進を目指すもの。

第1部では、「SDGsの意義と企業の取り組み」をテーマに、高崎商科大学特任教授の熊倉浩靖氏が基調講演を行った。第2部では、熊倉氏を進行役に、群馬県、三立応用化工(株)、(株)みまつ食品が、それぞれの取り組みを披露するとともに、意見交換を行った。シンポジウムに参加した60名超の出席者は、貴重な話に熱心に耳を傾けた。

■基調講演■

熊倉浩靖 氏(高崎商科大学特任教授)

熊倉氏は、SDGsは本業を通じて人類と地球の持続性を確保する取組み。経済・社会・環境の3つのバランスに配慮しながら、業務の改善・見直しを行っていくことが求められていると語った。

また、「上毛かるた」の読み札をいくつか取り上げ、SDGsを分かり易く説明。さらに、県内でSDGsに積極的に取り組む旅館と病院の活動内容も紹介した。



群馬県産業経済部産業政策課 課長 小沼義晴 氏 「2050年に向けた『ぐんま5つのゼロ宣言』を発表」



●SDGsに関連する取組みとして、「100年続く自立した群馬」を実現するため宣言書を発表。同書では、①自然災害による死者ゼロ、②温室効果ガス排出量ゼロ、③災害時の停電ゼロ、④プラスチックごみゼロ、⑤食品廃棄ゼロの5つを目標に掲げる。また、2021年5月に発表した「新・群馬県総合計画」では、今後10年間の重点施策をSDGsの17項目に連動した形で記載。こうした取組みが国に評価され、群馬県は、「SDGs未来都市」に選定されている。

三立応用化工株式会社 代表取締役 佐羽宏之 氏
「SDGsへの取り組みで、社内全体の環境意識の高まりを実感」

●エコアクション21の認証を取得し、環境保護という観点を重視し事業を展開してきた。その折、桐生市の公共交通を維持する活動等を通して、SDGsの考え方を知り、自社においても考えるようになった。SDGsに取り組むにあたっては、いきなり新しいことをしようとするのではなく、今行っている事業活動をSDGs17の目標に当てはめてみることから始めた。製造業を営む企業として、環境負荷を極力減らす努力をし、持続可能な社会の実現に貢献できる製品づくりに取り組んでいくべきであると考えている。



株式会社みまつ食品 代表取締役 神山光永 氏

「食を通して社会・顧客・従業員の幸せに貢献することもSDGsの取り組み」

●1日に約6トンのキャベツを使用するが、外葉や芯等を廃棄していた。廃棄部分を何とか活用できないかと考え、2017年から「キャベツプロジェクト」を開始。第一弾では、キャベツの芯からキャベツエキスを抽出し、キャベツサイダーを開発・販売。この取り組みは、SDGs17の目標の中の「12.つくる責任 つかう責任」に該当する。「食品廃棄ゼロ」に向け、食品製造業者として取り組みを続けていく。



事例紹介：組合によるSDGsの取り組み

本会では、業界課題の解決や共同事業の活性化を図ろうとする組合等に対し、連携組織等活性化支援事業を実施しています。本年度、協同組合群馬県木造住宅研究会を対象に本事業を行い、組合としてSDGs達成に向けた「宣言書」を構築しましたのでご紹介します。

本組合では、組合員企業及び組合の資質向上を目的として、組合員連名によるSDGsに関する宣言書を構築した。

全5回の講習やグループワークを通じ、組合や組合員の行う事業活動がSDGsに対し、どのように影響するかを整理。SDGsの観点から、継続発展すべき活動と改善見直しを要する活動の取りまとめを行ったのち、重点活動項目に対する数値目標を設定した宣言書が完成した。

宣言書は、大きく分けて「活動方針」「活動に関する数値目標」「活動内容」の3項目で構成される。

完成した宣言書

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs達成に向けた宣言書

当社は、SDGsの内容を理解し、SDGs達成に向けた方針及び取組を下記のとおり宣言します。

SDGs達成に向けた活動方針等

私たちは協同組合群馬県木造住宅研究会は、在来工法建築を専門とし県産材の活用を推進し、群馬県内、社会性を重んじた最先端木造住宅を研究し続ける団体として努力しております。環境性に関心、高品質の木造住宅を築き、人づくりでSDGs達成に努めます。

3つの領域(社会・環境・経済)	SDGs達成に向けた重点的な取組	2030年に向けた目標	重点的な取組
環境	環境配慮型住宅の建設で省エネルギー化に貢献します	組合員が新築施工する住宅におけるZEH住宅の割合	・ZEH住宅の普及推進活動 ・環境配慮型材の使用 ・建築廃材の削減
社会	新築、改修時の中心工種などの解決に寄り添った提案をします	・2025年までに50%以上 ・2030年までに100%	・産科相談会の実施 ・改修相談 ・耐震診断・地震調査
経済	技術の伝承、事業の継続に取り組めます	技術継承会の開催数 ・年2回以上 組合員が新築住宅の割合 ・年間100%	・技術交流会の開催 ・有資格者の抽出 ・コンプライアンス順守 ・BCP策定

組合員一円

ミスターホーム株式会社
有限会社東洋ホーム
株式会社田中工務店
技術者コミュニティラフン株式会社
有限会社アールエフ
株式会社大塚建設
株式会社木造住宅研究会
有限会社和光建設

群馬県協賛事業団体 印子(印)土地
協賛組合員企業連名研究会
理事長 川合 達

私たちが取り組むべきこと

私たちは持続可能な社会を築くため、限りある資源を大切に使うことを『住まい再成』とし、また、新たな資源に命を宿すことを『住まい創成』と定義づけ、次のことを大切に活動をして参ります。

「信頼を築く」

労働法・環境法・労働時間法など、事業活動に伴うすべての法規制の順守に努めます。またこれについては、本会の会員要件として、誓約書を締結します。

「持続可能で快適な暮らしを築く」

省エネ住宅（ZEH）など環境配慮した住宅、バリアフリー住宅など木造住宅ならではの快適な家づくりを推進します。永く住み続けていただくため、家のホームドクターとなります。

「住む人の想いを築く」

はじめての家づくり、今の暮らしに合った住宅に改築する時の不安に寄り添い最適なご提案をいたします。また、社会課題解決として、産科の普及推進活動への協力や、家づくりの悩みごとの無料相談会を開催し地域に密着した活動が私たちの信条です。

「伝統技術の継承で未来を築く」

伝統ある木造住宅づくりの技術を伝承するために、技術者や大工さんの育成に力を注ぎます。また、同じ志を持った仲間同士交流することで、切磋琢磨し、より技術力の高い人材を確保し、持続可能な事業運営を目指します。



第73回中小企業団体全国大会 in 神奈川

全国中小企業団体中央会・神奈川県中小企業団体中央会は、11月25日、神奈川県横浜市・パシフィコ横浜において、第73回中小企業団体全国大会を開催。全国から中小企業団体の代表者約1,700名(本県からは21名)が参集した。



森会長の開会挨拶

大会は、全国中小企業団体中央会・森洋会長の開会挨拶で幕を開け、萩生田光一経済産業大臣らの祝辞が述べられるとともに、後藤茂之厚生労働大臣のビデオメッセージも放映された。

その後議案審議に入り、中小企業が事業継続を行える環境の整備など21項目を決議し、満場一致で採択となった。

続いて表彰式が行われ、優良組合35組合、組合功労者76名、中央会優秀専従者20名が受賞の栄に浴した。※本県からの受賞者は、下記のとおり。

~~~~~本県の受賞者~~~~~



### 優良組合

協同組合群馬県建築設計センター  
(理事長・井野公雄氏)



### 組合功労者

今川守氏  
(群馬県商店街振興組合連合会・会長)

次期大会は、令和4年11月10日(木)に、長崎県において開催することが発表され、大会旗が森会長から長崎県中小企業団体中央会・石丸忠重会長へ継承された。



大会旗を受け取る石丸会長

最後に、独立行政法人中小企業基盤整備機構・豊永厚志理事長の音頭による万歳三唱が行われ、閉会となった。



本県からの参加者